

基本目標 2：地域の特色を活かした選ばれるまちづくり

■現状と課題

- ・通勤の状況を見ると、市外への通勤が過半数を占めており【人口ビジョン頁 16 図 26】、中でも東京都・特別区への通勤が最も多い。市民アンケートでも、本市に住むことを決めた理由の第 1 位が「通勤・通学に便利である」となっている【定住・子育てに関する意識調査頁 8】。
- ・男女とも 30 代後半で転出数が増える傾向が見られるほか、10 歳未満は転出超過となっており、子育て世帯が、子どもの就学や住宅取得のタイミングで転出するケースが多いと考えられる【人口ビジョン頁 6 図 9】。
- ・10 歳未満、30～40 代の年齢階層は男女共に転出が増える傾向が見られ、子育て世帯が、子どもの就学や住宅取得の理由で転出していると思われる【人口ビジョン頁 6 図 9】。
- ・市内に鉄道が 2 路線（東武東上線・JR 武蔵野線）あり、鉄道交通の利便性が高いという強みがある。
- ・陸上自衛隊朝霞駐屯地が 2020 年（平成 32 年）の東京オリンピック・パラリンピックの競技会場として予定されており、国内外から多くの集客が期待できる。このチャンスを生かし、朝霞市の魅力を市内外へ PR していくことで、朝霞市の知名度の向上と市民の地域への誇り・愛着の醸成を図ることが可能となると考えられる。

■目標

多くの人に転居の際に居住先として朝霞市を選択していただけるようまちの魅力を PR し、市民であることを誇れて、長く住み続けたいと思えるまちを目指す。

取組方針

（１）朝霞市の魅力の再発見と活用による、特色あるまちづくり

交通、自然、環境など、朝霞市の特色である「住みやすさ」を強調するとともに、地域固有の歴史・文化を伝え広め、地域の特色を明確にする。

（２）ふるさと意識の醸成

市民が幅広く参加できる行事を定期的に行い、地域の一体感、団結力を感じることができるまちづくりを進めることで、市への愛着、ふるさと意識の醸成を図る。

（３）朝霞市の魅力を発信するシティプロモーション

朝霞市の魅力と一体感のある地域性を市内外へ積極的に情報発信することで、対外的には朝霞市への知名度の向上を図り、市民に対しては朝霞に住んでいることを誇れるようなまちづくりを進める。

数値目標	現状値	目標値（H31）	総合計画の中柱
これからも朝霞市に住み続けたいと思っている市民	84.8% (H25)	86%	市民意識調査

■具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）

（１）朝霞市の魅力の再発見と活用による、特色あるまちづくり

①利便性の高い鉄道交通の強みを強化する市内交通環境の向上			
・駅から自宅までの市内交通環境の向上を図り、朝霞市の強みである鉄道交通の利便性をフォローする。 ・市の顔である駅前空間の魅力を高め、駅を降りた人がまちについてもっと知りたい、住んでみたいと思えるまちづくりを進める。			
重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（H31）	備考
駐輪場稼働台数	9,514台 (H25)	9,868台	
市内循環バス（コミュニティバス）を１年間に利用した延べ人数	383,683人 (H25)	407,000人	
主な取組			
朝霞駅南口駅前通りアメニティーロード化事業 ・（先行型事業）誰もが安心・快適に買い物ができるように歩行者空間を確保し、魅力ある駅前通り整備を図る。			
市内循環バス運営事業 ・通勤・通学の利便性の向上、公共施設の利用促進、路線バスが運行されていない地域の交通手段を確保するため、市内循環バスを委託により運行する。			
自転車駐車場管理運営事業 ・駅周辺に整備した自転車駐車場等を市民が快適に利用できるよう適正に管理運営を行う。			

②魅力ある居住環境の整備			
・朝霞市のシンボルとなっている黒目川までの歩道の整備等、市民により親しまれる河川環境づくりを推進することで、潤いのある生活スタイルを提案し定住促進を図る。 ・基地跡地をはじめとして、身近な場所に子どもたちが自由に遊べる公園を整備することで、定住促進を図る。 ・家族で買物を楽しめる場所が市内には少ないと感じ市外で買物をする市民が多く、また駅周辺等で商店が減少していることから、地域の活力を支える「おしゃれでにぎわいのあるまちづくり」を進める。 ・朝霞市の自然環境や歴史的・文化的な資源を活かし、快適で活力ある住宅都市としての魅力を高めて発信することで、より多くの人々が朝霞に住み続けたい、訪れたいと感じるまちを目指す。			
重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（H31）	備考
基地跡地公園を利用した人の延べ人数	—		
景観の満足度	34.7% (H25)	40%	市民意識調査
主な取組			
基地跡地公園・シンボルロードの整備 ・基地跡地利用計画の見直し結果に基づき、整備基本計画を見直す。跡地整備の先行プロジェクトとして、シンボルロード整備に着手する。また、公園は、当面は暫定的な開放とし、いくつかの段階を経た整備を検討する。			
黒目川桜並木管理事業 ・多くの市民に親しまれている黒目川について、遊歩道、植栽など市民と協働して管理を行い、魅力ある水辺空間づくりに努める。			
緑化の推進 ・武蔵野台地の崖線に残存する斜面林などは、公有地化を検討し、条例に基づく保護地区・樹木の指定や生け垣設置補助などの制度を活用して緑地の保全と緑化の推進に努める。			
公園の整備と維持管理 ・土地利用を勘案し、位置や規模、目的に応じて公園を計画・配置し、整備する。また、長寿命化計画に基づき、施設の適切な維持管理に努める。			
花と緑のまちづくり事業 ・市民と協働で駅前広場や道路に花を植え、潤いのあるまちづくりに努めるとともに、街路樹の植込み等の管理を適切に行う。			
児童遊園の管理と改修 ・児童遊園地の遊戯施設、休養施設、修景施設、運動施設等の改修工事を行い、市民が公園を活用しやすくする。			

景観まちづくり推進事業

- ・本市の景観計画の周知を図るとともに、景観づくりの推進に向けて景観審議会の運営、景観協議会の設立等を行い良好な景観形成を進める。

都市計画総務事業

- ・都市計画マスタープランのまちづくりの将来像の実現に向け計画を推進するとともに、都市計画審議会の開催等により都市計画の総務管理を執行する。

③魅力ある歴史に触れる

- ・地域の歴史と文化、伝統に触れることで、文化財が市民共有の財産であるという意識を醸成する。

重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（H31）	備考
重要文化財旧高橋家住宅来館者数	11,589 人 (H25)	11,760 人	
主な取組			
博物館運営事業			
・郷土の歴史を語るさまざまな文化財を収集・保存し活用を図り、博学連携事業をはじめとした各種事業を展開することで、朝霞の歴史に親しみを持ってもらうことを目指す。			
旧高橋家住宅管理運営事業			
・国指定重要文化財旧高橋家住宅の保護・活用を通じて、朝霞の貴重な文化財が市民共有の財産であるという意識の醸成を目指す。			

(2) ふるさと意識の醸成

①地域イベントの活性化による住民間の交流促進			
朝霞市を代表する四季のイベント（黒目川花まつり、彩夏祭、朝霞アートマルシェ、北朝霞どんぶり王選手権）の拡大・活性化を図り、住民間の交流を促進する。			
重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（H31）	備考
各種イベント入込客数	735,000 人	750,000 人	
主な取組			
黒目川花まつり支援事業 イベントの継続開催への支援			
彩夏祭開催の支援 ※基本目標4－（１）－② 朝霞市民まつりの継続開催を支援する。			
朝霞アートマルシェ支援事業 イベントの継続開催への支援			
北朝霞どんぶり王選手権支援事業 イベントの継続開催への支援			

(3) 朝霞市の魅力を発信するシティプロモーション

①まちの情報の発信方法の充実			
・まちに関する情報が必要な人に情報を確実に提供するため、情報発信方法の拡大と充実を図る。 ・2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックの競技開催地となる機会をとらえ、市内外に向けて朝霞市の良さをPRする。			
重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値（H31）	備考
フェイスブックにおける「いいね！」の数	1,127 (H27)	2,000	
主な取組			
市制施行50周年や東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けたシティプロモーションの展開 ・市制施行50周年や東京オリンピック・パラリンピックの競技開催地の強みを生かし、動画の制作や市をPRするホームページの作成など、全国に朝霞市のシティプロモーションを展開する。			
シティ・セールス朝霞ブランド育成事業 ・シティ・セールス朝霞ブランドとして認定した地域資源の市内外への周知と市のイメージ向上及び郷土意識の醸成のためのブランドを活用した事業展開を図る。			